

政策体系	政策No.	4	政策名	育み磨きあうまちづくり			施策主管課	教育総務課
	施策No.	2	施策名	青少年の健全育成	重点施策		施策主管課長名	久保 隆義
施策関係課名	総務課、安心安全課、学校教育課、保健体育課、生涯学習課、文化振興課、国分中央高校							

1 基本計画期間(平成25年度～平成29年度)における施策の方針

- 「霧島錦江湾国立公園」をはじめとする本市の自然環境を活かした異年齢による体験活動等を通して、心と体のバランスがとれた「きりしまっ子」を育成する。
- 次代を担う青少年が、地元の先輩たちに学び、夢や目標を持ち、努力する心を醸成する。
- 家庭の教育力を高めるとともに、地域ぐるみで青少年を育成する気運を醸成し、地域全体の教育力を高める。

2 施策の目的と成果把握

① 対象 (この施策は、誰、何を対象としているのか)		青少年							
② 対象指標 (対象の大きさを表す指標)		単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
A	青少年の人数(6～18歳の人口)	人	見込み値	17,590.00	16,978.00	17,424.00	16,686.00	16,584.00	16,482.00
			実績値	17,513.00	17,316.00				
③ 意図 (この施策によって対象をどう変えるのか)		心身ともに健全な成長をする							
④ 成果指標 (意図の達成度を表す指標)		◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%～105%未満) △目標を未達成(95%未満)							
		単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
A	学校外活動を行う青少年団体に加入している児童生徒の割合	%	成り行き値		53.0	52.5	52.0	51.5	51.0
			目標値		53.5	53.5	53.5	53.5	53.5
			実績値	51.5	49.3				
			達成率		92%				
			結果	△					
B	中学2年生のうち、社会のルールやマナーを守っていると回答した生徒の割合	%	成り行き値		75.5	75.5	75.5	75.5	75.5
			目標値		76.5	77.5	78.5	79.5	80.5
			実績値	93.9	97.5				
			達成率		127%				
			結果	◎					
C	青少年が他人に迷惑をかけるという行動が、以前に比べて減ったと考える市民の割合	%	成り行き値		16.0	16.0	16.0	16.0	16.0
			目標値		17.0	18.0	19.0	20.0	21.0
			実績値	16.8	19.2				
			達成率		113%				
			結果	◎					
D			成り行き値						
			目標値						
			実績値						
			達成率						
			結果						

⑤ 成果指標の測定方法 (実際にどのように実績を把握するか)		⑥ 平成29年度の目標値設定の考え方							
A 校外活動を行う青少年団体に加入している児童生徒の割合 B 中学2年生のうち、社会のルールやマナーを守っていると回答した生徒の割合 ※中学2年生へのアンケート調査 C 青少年が他人に迷惑をかけるという行動が、以前に比べて減ったと考える市民の割合 ※総合計画進行管理に係る市民意識調査		A 「学校外活動を行う青少年団体に加入している児童生徒の割合」については、今後も都市化や少子化の進行により青少年団体への加入率の減少が考えられるが、子ども会やスポーツ少年団等の活動を活性化することで、現状維持に努める。							
		B 「中学2年生のうち、社会のルールやマナーを守っていると回答した生徒の割合」については、規範意識の高揚が現代社会の直面している社会的課題であることから、関係機関と連携した児童生徒の校外生活指導を充実するとともに、地域ぐるみで子どもを見守りながら、平成21年度実績値の75.5%から5ポイント改善することを目指す。							
		C 「青少年が他人に迷惑をかけるという行動が、以前に比べて減ったと考える市民の割合」については、規範意識の高揚が現代社会の直面している社会的課題であることから、関係機関と連携した児童生徒の校外生活指導を充実するとともに、地域ぐるみで子どもを見守りながら、平成23年度実績値の16%から5ポイント改善することを目指す。							
		D							

3 基本計画期間で解決すべき施策の課題(総合計画書より)

- 心と体のバランスがとれた「きりしまっ子」を育てるため、豊かな自然環境の中で、様々な体験活動を行う必要がある。
- 青少年団体等への加入率が低くなってきているため、加入促進に努める必要がある。
- 子どもたちの地域行事への参加促進を図る必要がある。
- 子どもたちが将来の夢に向かって努力する精神を醸成していく必要がある。
- 家庭でのしつけを徹底するとともに、学校応援団活動の活性化を図ることで、地域の教育力を高めていく必要がある。

4 施策の特性・状況変化・住民意見等

① この施策の役割分担をどう考えるか(協働による市民と行政の役割分担)

ア) 行政の役割 (市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)	イ) 市民(住民、事業所、地域、団体等)の役割
<ul style="list-style-type: none"> ■研修の機会及び場を設定し、指導者を育成する。 ■青少年育成団体への指導、助言を行う。 ■学校や地域との連携を図る。 ■青少年を健全に育成する気運を醸成するため、広報、啓発活動を行う。 ■各種団体と連携し、非行の未然防止を図る。 ■青少年育成事業の充実・推進に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ■家庭 <ul style="list-style-type: none"> ・青少年育成団体の価値を認識する。 ・各家庭内での教育(しつけなど)の充実を図る。 ・地域の行事に家族そろって参加する。 ■地域・団体等 <ul style="list-style-type: none"> ・公民館行事の中で青少年に役割を与える。 ・地域の子どもたちは、地域で見守る観点から、積極的に声かけを行う。 ・異なる青少年育成団体の育成者同士が連携を図る。 ・学校、家庭、地域の連携を密にし、「学校応援団活動」へも積極的に参加する。 <p>※学校応援団活動…学校の教育活動に対して、地域の方々ボランティアとして支援にあたること。</p>

② 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか?

- 少子化、共働きの増加や国際化等による社会情勢の変化により、今後ますます青少年を取り巻く環境が厳しくなることが予想される。
- 都市化の進展により、地域ぐるみで青少年を育てようという気運が薄れてきている。
- 市内の都市化の進展や郊外型大型店舗の増加により、青少年の非行増加が懸念される。

③ この施策に対して市民(対象者、納税者、関係者等)、議会からどのような意見や要望が寄せられているか?

- 自転車の二人乗り、並進など、交通マナーが悪いとの声寄せられている。
- 議会から郷中教育の具体的実践を求める声がある。
- 子どものしつけなど子育ての悩みを訴える市民が増えている。

5 施策の現状

① 平成25年度施策の取組方針

- 子どもたちが将来の夢に向かって努力する精神を醸成していくため、志を育む事業を充実する。
- 地域ぐるみで青少年を育成する機運を醸成することにより、地域の教育力を高める。
- 心と体のバランスのとれた「きりしまっ子」を育てるため、各種体験活動を充実する。

② 平成25年度施策の取組方針の達成状況

- 「きりしま立志塾」を実施し、中学生17名が参加し、将来に向かって夢や希望を持ち、志を育む事業を行った。
- 22の校区青少年健全育成連絡会で、あいさつ運動、声かけ運動、地域活動等青少年健全育成事業が実施された。
- 「いざ行け! きりしま探検隊」は、自然の中で、普段では体験し難い様々な体験を実施することができた。

③ 平成25年度施策の目標値と実績値の比較

目標達成 ◎ 105%以上
目標をほぼ達成 ○ 95%~105%未満
目標を未達成 △ 95%未満

	平成25年度成果指標			結果
	目標値	実績値	達成率	
A	53.5	49.3	92.0%	△
B	76.5	97.5	127.0%	◎
C	17.0	19.2	113.0%	◎
D				
E				
F				

④ 平成25年度施策の成果指標の達成状況及び要因

A 「学校外活動を行う青少年育成団体に加入している児童・生徒の割合」は、目標値に達しなかった。この要因は、自治会未加入世帯の増加など、保護者の地域活動への参加意識の希薄化により、子ども会の会員が減少していることが考えられる。

B 「中学2年生のうち社会のルールやマナーを守っていると回答した生徒の割合」は、前年度と比較して3.6ポイント上がり、目標値を大きく上回った。この要因は、児童・生徒の健全な育成を図るため、各小・中・高校とPTA連絡協議会・子ども会育成連絡協議会との協力連携と校内・校外における生徒指導等が考えられる。

C 「青少年が他人に迷惑をかけるという行動が以前に比べて減ったと考える市民の割合」については、前年度と比較して実績値が2.4ポイント上がり、目標値を2.2ポイント上回り目標を達成した。この要因は、あいさつ運動や補導員、地域の防犯パトロール隊などによる声かけ活動の成果と考えられる。

⑤ 基本事業の目標達成度
(平成25年度目標と実績との比較)

○=すべての目標値を達成 △=一部の目標値を達成 ×=すべての目標値を未達成

① 体験と立志を支援する環境づくり	△	⑤	
② 地域全体で子どもを見守り育む環境づくり	△	⑥	
③		⑦	
④		⑧	

6 平成26年度の施策の取組方針 (昨年度マネジメントシートより)

- 志を育む事業を継続し、子どもたちがより具体的に将来の夢を描けるように努める。立志塾については、英語を中心とした内容で実施する。
- 地域ぐるみで青少年を健全に育成するため、地域の教育力を高める。
- 心と体のバランスのとれた「きりしまっ子」を育てるため、活動内容を一部変更し、各種体験活動を充実する。

7 平成27年度に向けた施策の課題・方向性

- 志を育む事業を継続し、きりしまっ子立志10年カレンダーの活用の充実を図り、立志塾については内容の充実を図る。
- 地域で育てる青少年健全育成事業を継続し、校区ごとに青少年の健全育成を図る。
- 心と体のバランスのとれた「きりしまっ子」を育てるために、地域の自然や文化を活用した各種体験活動を充実する。

基本事業No.	4-2-1	基本事業名	体験と立志を支援する環境づくり	基本事業 主担当課	生涯学習課
---------	-------	-------	-----------------	--------------	-------

1 基本事業の目的、取組み方針					
①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）					
<ul style="list-style-type: none"> ■「教育振興基本計画」に基づいて各種青少年育成事業を実施し、心と体のバランスがとれた「きりしまっ子」を育成する。 ■様々な資源を活用した体験活動プログラムの充実を図る。 ■きりしまっ子立志推進事業を充実し、夢や志を持った子どもたちの育成を図る。 ■青少年団体への加入促進を図る。 					
②対象	青少年	③意図	<ul style="list-style-type: none"> ・霧島の自然や産業、伝統文化等の様々な資源を活用した体験活動ができる ・夢や志をもつ ・青少年団体への加入を促進する 		

2 基本事業の指標等の推移		◎目標達成(105%以上)		○目標をほぼ達成(95%~105%未満)		△目標を未達成(95%未満)			
①成果指標名	単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
A 体験活動プログラムに参加し、満足した児童生徒の割合	%	参加者アンケート	成り行き値	88.0	88.0	88.0	88.0	88.0	88.0
			目標値	89.0	89.5	90.0	90.5	91.0	91.5
			実績値	94.0	92.9				
			達成率	106%	104%				
			結果	◎	○				
B 将来の具体的な夢や志について考えたことのある中学生の割合	%	中学2年生へのアンケート	成り行き値		83.5	83.5	83.5	83.5	83.5
			目標値		84.0	84.5	85.0	85.5	86.0
			実績値	83.5	85.5				
			達成率		102%				
			結果		○				
C 小学校1年生の子ども会加入率	%	加入申込書集計	成り行き値	88.0	87.0	86.0	85.0	84.0	83.0
			目標値	89.5	90.0	90.5	91.0	91.5	92.0
			実績値	88.1	82.8				
			達成率	98%	92%				
			結果	○	△				
D			成り行き値						
			目標値						
			実績値						
			達成率						
			結果						

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠
<p>A 満足度の低い体験活動の内容を充実しながら、満足度の割合を、平成23年度実績値である88.5%から3ポイント伸ばすことを目標とした。</p> <p>B 中学生の立志の心を育みながら、毎年0.5ポイントずつ伸ばしていくことを目標とした。</p> <p>C 国分・単人地区の加入促進を図り、加入率を0.5ポイントずつ増やすことで、平成21年度実績値である91.9%の水準に戻すことを目標とした。</p>

4 平成25年度基本事業の取組方針	5 平成25年度基本事業の取組方針の達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ■体験事業を中心とした各種青少年育成事業の内容を工夫し、参加者が満足する事業を実施する。 ■「きりしまっ子立志塾」の充実を図る。 ■青少年育成団体の活性化を図るため、子ども会への加入促進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ■体験事業は、霧島連山登山、水生植物観察、山ヶ野金山探検、鮎漁体験、海釣り体験、トヨタ車体モノづくり維新館での見学と体験、黒酢工場体験、麴についての学習など様々な体験活動を行い、参加者が満足することができた。 ■「きりしまっ子立志塾」については、17名が参加し、将来のことをしっかりと考える機会になった。 ■子ども会の加入率については、自治会に呼び掛け組織化の協力を依頼した。

6 平成25年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因
<p>A 「体験活動プログラムに参加した児童生徒の満足度」については、前年度に比べ1.1ポイント減少したが、目標値を3.4ポイント上回る事ができた。その要因としては、各種体験事業に実際参加した児童生徒は、どの体験活動にも様々な魅力を感じ満足しているものと考えられる。</p> <p>B 「将来の具体的な夢や志について考えたことのある中学生の割合」は、中学2年生のアンケート調査により、前年度より2ポイント上昇し、目標値を1ポイント上回る事ができた。その要因は、「きりしまっ子立志10年カレンダー」の活用により、児童生徒が将来に向かっての夢や希望を持つきっかけになったと考えられる。</p> <p>C 「小学校1年生の子ども会加入率」は、昨年を5.3ポイント下回り、目標値においても7.2ポイント届かなかった。その要因としては、自治会未加入世帯の増加など、保護者の地域活動への参加意識の希薄化の影響もあり、減少したと考えられる。</p>

7 平成26年度基本事業の取組方針	8 平成27年度に向けた基本事業の課題・方向性
<ul style="list-style-type: none"> ■単発型の体験事業が多いことを見直し、より効果の期待できる事業を実施する。 ■「きりしまっ子立志10年カレンダー」の活用方法について検討する。 ■「きりしまっ子立志塾」の参加者確保の方法を検討し、英語を中心とした内容に変更する。 ■子ども会の加入促進を図るための手段を講じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■体験活動のプログラムの改善や職員の指導力向上を図る。 ■志を育む事業を継続し、きりしまっ子立志10年カレンダーについては、デザイン及び活用方法を検討し、きりしまっ子立志塾については、国際感覚を養うことを目標にした内容を継続する。 ■引き続き、子ども会の加入促進を図るための手段を講じる。

基本事業No.	4-2-2	基本事業名	地域全体で子どもを見守り育む環境づくり	基本事業 主担当課	安心安全課 生涯学習課
---------	-------	-------	---------------------	--------------	----------------

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）	
<ul style="list-style-type: none"> ■家庭の教育力や地域の教育力の向上を図る。 ■子どもたちや保護者の地域行事への参加促進や、学校応援団事業の推進を図りながら、地域全体で青少年を育てようという気運を高める。 	
②対象	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年 ・家庭 ・地域
③意図	<ul style="list-style-type: none"> ・社会のルールを身につけ、守る ・しつけを徹底する ・青少年に関心を持って、あいさつや声掛けをする

2 基本事業の指標等の推移 ◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

①成果指標名	単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
				成り行き値	目標値	実績値	達成率	結果	
A 霧島警察署・横川警察署管内の不良行為少年数	人	霧島警察署「地域安全白書」、横川警察署「安全のしるべ」	成り行き値	400.0	400.0	400.0	400.0	400.0	400.0
			目標値	365.0	350.0	335.0	320.0	305.0	290.0
			実績値	369.0	376.0				
			達成率	99%	93%				
			結果	○	△				
B あいさつや声掛けを行っている市民の割合	%	市民意識調査	成り行き値		72.2	72.2	72.2	72.2	72.2
			目標値		72.7	73.2	73.7	74.2	74.7
			実績値	72.2	73.1				
			達成率		101%				
			結果		○				
C			成り行き値						
			目標値						
			実績値						
			達成率						
			結果						

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

A 平成23年度の実績値である367人をベースとし、警察との連携を図りながら、補導者数を5年間で290人まで減らすことを目標とした。
B 平成24年度の実績値である72.2%をベースとし、地域の教育力の向上を図りながら、毎年0.5ポイントずつ上昇することを目標とした。

4 平成25年度基本事業の取組方針 **5 平成25年度基本事業の取組方針の達成状況**

<ul style="list-style-type: none"> ■地域ぐるみで青少年を育てようという意識を高めるために、青少年健全育成組織の活動を充実する。 ■非行のないまちづくりを推進するために、青少年育成センター指導員や補導員による巡回指導を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■地域ごとに行われている青少年健全育成のための活動に対し補助金を交付したほか、中学校での健全育成のための会議を側面から支援し、地域ぐるみで青少年を育てる意識を高めることができた。 ■青少年育成センター指導員による街頭補導回数168回、補導員による街頭補導703回を実施したことで、青少年の問題行動を未然に防止できた。
---	---

6 平成25年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

A 「市内における青少年の補導件数」は、前年度実績に比べ7件の増加であり、目標値に対しては26件上回っている。その要因としては、校外補導を強化し、生徒指導主任研修会などを通じて、万引き防止の強化などに努めたが、大型店舗などでの非行が減少しないことが考えられる。
B 「あいさつや声掛けを行っている市民の割合」は、前年度実績より0.9ポイント上回り、目標値に対しても0.4ポイント上回った。その要因としては、地域でのあいさつ運動が広がっていることが考えられる。

7 平成26年度基本事業の取組方針 **8 平成27年度に向けた基本事業の課題・方向性**

<ul style="list-style-type: none"> ■地域ぐるみで青少年を育てようという意識を高めるために、青少年健全育成組織の活動を充実する。 ■非行のないまちづくりを推進するために、補導員が使用する車にも青色回転灯を設置し、青少年育成センター指導員や補導員による巡回指導を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■地域ごとの取組に温度差があるため、市内全体に浸透するよう地域リーダーに対し働きかけを強める。 ■引き続き、青少年育成センター指導員や補導員による巡回指導を充実する。
--	--